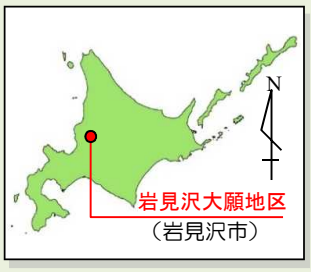
国営緊急農地再編整備事業

岩見沢大願地区

（いわみざわおおねがい）

～ スマート農業が拓く地域の未来 ～



地区の概要

本地区の営農は、水稲、小麦、大豆のほかたまねぎ、はくさい等の野菜類を組み合わせた農業経営が行われており、ほ場作業の効率化等による作物生産コストの低減、たまねぎ等の高収益作物の生産拡大等による産地収益力向上を推進することとしている。

位　　置：北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯
関係市町村：岩見沢市
受 益 面 積：1,100ha
主 要 作 物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ、はくさい等

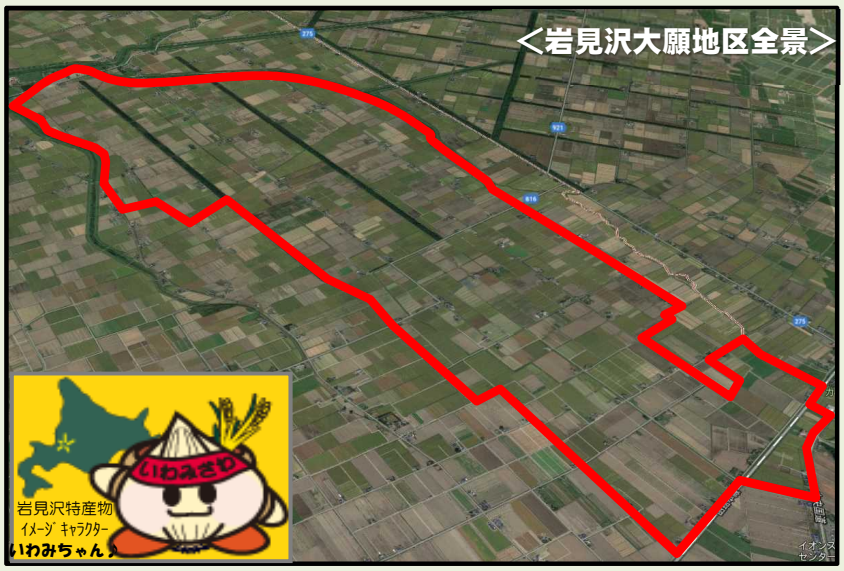
地域農業の特徴

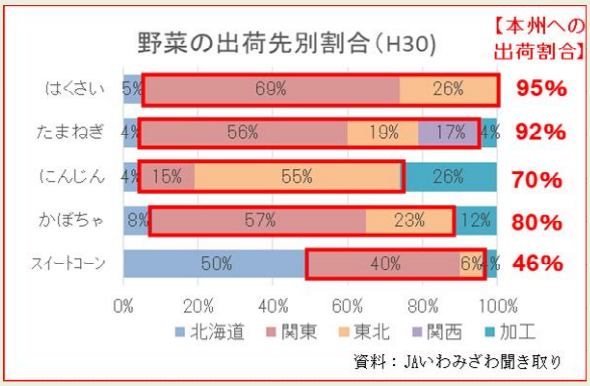
地域独自の栽培履歴や生産工程管理により、品質向上と安心・安全を確保した農産物生産。野菜は関東を中心に全国で消費されるとともに、米は販路拡大に向けた輸出に取り組む。

地域ではICT技術活用による超省力化・低コスト化を目指し、農業者が研究会を設立するとともに、スマート農機導入を進めるほか、大学等と連携した無人ロボットトラクタ等の先進技術の実証にも取り組む。

小区画・排水不良かつ分散するほ場では作業効率が低く、スマート農機の効率的運用が困難なため、農業を核とした地域発展の妨げ。限られた労働力の中、これらほ場の承継は困難なため耕作放棄地の増加が懸念。

今後も経営規模拡大が想定されるが、現状のままでは労働力を多く要する野菜類の生産維持も困難。



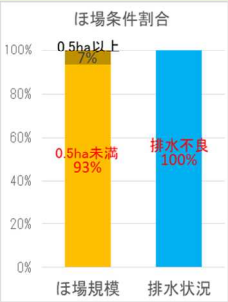


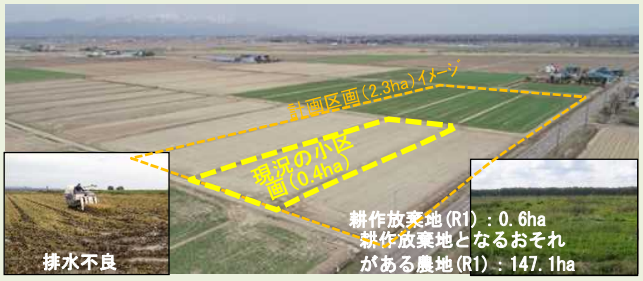
たまねぎ
（作付面積全道４位）

はくさい
（作付面積全道１位）

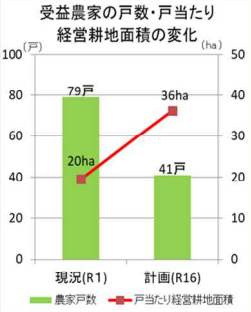
岩見沢大願地区の整備構想

地区の現状と課題





今後、耕作放棄地の増加が懸念



営農の特色

ICTを活用したスマート農業の推進(農業者)

○トラクタに装着する「ＧＰＳガイダンス」「自動操舵システム」を担い手農家全戸で導入。トラクタによる圃場作業すべてが効率化

○自動操舵田植機・ＧＰＳレベラー・農業用ドローンなどのスマート農業機器も積極的に導入推進

○これらスマート農業の推進で熟練を要さないオペレータ作業を実現。疲労軽減を図りつつ農作業の効率化・省力化と経費を節減

→ 削減される労働力で野菜生産拡大

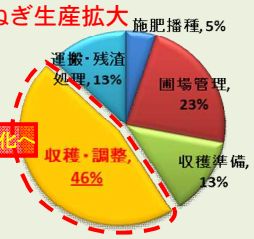
誤差数cm、自動走行も可能で作業速度向上

JAコントラクターの設立

○たまねぎ収穫作業を請け負う、JAコントラクター設立。農業者の圃場労働力、機械保有コスト節減を図りつつ、需要の高いたまねぎの生産拡大を目指す。

→ 削減される労働力でたまねぎ生産拡大

□圃場作業時間の約5割を占める収穫等作業を委託化(JAコントラクター請負へ)



農作業請負体制の確立(農業者)

○農作業の請負体制を整備（地区内２組織展開）。大区画ほ場に対応した大型作業機械・自動走行農機を活用した請負体制構築により、各農家のほ場作業時間・機械保有コストを削減

→ 削減される労働力で野菜生産拡大

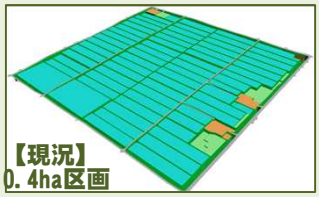
作業	作物	現況		計画	
		機械名	規格	機械名	規格
収穫	水稲	自脱型ｺﾝﾊﾞｲﾝ	1.7m	汎用ｺﾝﾊﾞｲﾝ	3.6m
	小麦	ｺﾝﾊﾞｲﾝ	2.1m		
	大豆				
施肥	小麦	ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀｰ	800ｸﾞﾗﾑ	可変施肥ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾀ	1,500ｸﾞﾗﾑ
均平化	水稲	ﾚｰｻﾞｰﾚﾍﾞﾗｰ	―	GPSﾚﾍﾞﾗｰ	4.1m

国営緊急農地再編整備事業の実施

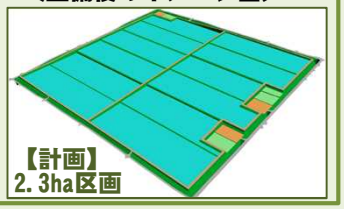
■ほ場の大区画化（現況0.4ha→計画2.3ha）
■排水不良の解消
■担い手農家への農地集積
■水管理の合理化

ほ場の大区画化等と地域の中心となる経営体への農地集積や水田の汎用化を通じて食料の安定供給を担う意欲ある農業者が経営発展に取り組める環境を整備する。

＜現況ほ場のモデル図＞



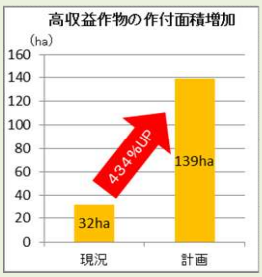
＜整備後のイメージ図＞



収益性の高い野菜生産の拡大
～農家所得・地域生産額の増大～

☆本事業の実施と併せて推進する地域取組を通じて生み出される労働力を活用し、収益性の高い"野菜生産の拡大"を実現

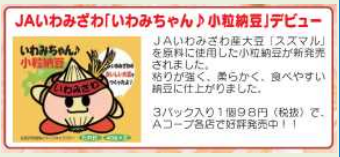
□消費者へ「安心・安全」な国産(岩見沢産)農産物を安定的・持続的に提供
□生産コスト低減による経営体質強化
□農家所得や地域農業生産額の増大
□農業振興を核とした地域の持続的発展



○地域の農産物を使った商品開発を進め、付加価値形成を図りながら収益性の向上や販路拡大に努め、農業所得の向上を図る

岩見沢産小麦を使ったラーメン

岩見沢産たまねぎ等を使ったスープ



岩見沢産大豆を使った納豆